

平成21年度事業報告

1. 事業概要

昨年度に引き続き景気の低迷と横ばい状態が続き、当センターにおいても同様に厳しい事業運営となりました。いまだ続く景気低迷の影響は、就業機会の減少と就業の場を求める高齢者の増加という、需要と供給のアンバランスを生み出す結果となりました。就業機会拡大と会員確保、センターの両輪ともいべき事業運営の両柱の不均衡を是正していくことは、センターにとってこの先しばらくの大きな課題といえます。

また、社会全体の少子高齢化は止まらず、当市においてもその傾向は強くなり、独居を含む高齢者世帯が増加傾向にあります。そこに潜在する需要、例えば電球の交換やちょっとした修繕など高齢者世帯ゆえに手の届きにくい仕事は、就業機会が減少しているなかにおいても少しずつ増加してきています。社会情勢を考えると今後もその需要は増えていくと思われますので、地域に根差したセンターとしては対応できる体制をしっかりと整える事が重要であります。

平成21年度末の会員数は、前年度より45人増の1,704人となりました。

事業実績では、就業受託金額が773,542,638円（前年度822,564,139円）、就業延べ人員については200,329人（前年度212,689人）となり、いずれも前年度を下回る結果となりました。

2. 事業実施状況

(1) 会員・就業機会の確保

- ① 自治会や地区社協・地域ケア推進連絡会の会議・会合に参加し、チラシやパンフレットなどを配布しながらセンターの概要を説明してPR活動を行いました。
- ② 市川市の「長寿ふれあいフェスティバル」「防災ひろば」「市民まつり」「還暦式」や市川第二地区社会福祉協議会の「ふれあいセンターまつり」に参加し、チラシやパンフレット、ポケットティッシュ等を配布しPR活動を行いました。
- ③ 10月のシルバー人材センター普及啓発月間にはポスターを掲示し、また、ホームページや市広報紙を利用して、会員や就業機会の確保に努めました。
- ④ 国の補助事業である「就業機会創出員」を8名配置し、2月と3月の短期間に一般家庭や事業所への訪問活動（5,693件）を集中的に行い、会員募集と需要の掘り起こしに努めました。

(2) 会員活動の充実

- ① 駐輪場管理や公共施設管理に就業している会員約350人を対象に、接客研修を実施し、接客態度や言葉遣い、公金の取り扱いについての講義を受けました。また、草取り職群班は研修会を行い、実技講習では発注者の敷地内を作業し技術の向上と会員間の連携を図りました。
- ② 会員のボランティア団体「くすの木会」の活動として、江戸川クリーン作戦に参加しました。市川市の「還暦式」では受付・案内係として、「行徳まつり」では会場内の清掃係として活動しました。他にも市川霊園の植栽の刈り込み作業を行いました。また、市川市の1%支援制度の支援団体として認定され、講習会「庭木の手入れ基礎講座」を同会の事業として60~70歳の市民を対象に開催しました。
- ③ 会員による囲碁・手工芸・料理・表装の各同好会の活動に支援を行いました。

(3) 安全就業対策

- ① 安全委員会を中心に会員就業先への巡視を実施し、現状の把握と改善策の提案をしました。
- ② 千葉県シルバー人材センター連合会の研修に参加し、安全就業について講習を受け、その普及に努めました。

(4) 適正な就業

- ① 受注内容の精査・適正化を図り、公平な就業機会の提供と法律に遵守した就業になるよう契約・就業の見直しをはかりました。
- ② 未就業会員への声掛けを積極的に行い、就業率の向上に努めました。

(5) 事業推進体制の強化

- ① 職員については、積極的に連合会主催等の研修会に参加して、知識やノウハウを蓄積し、事務処理能力の向上に努めました。
- ② 千葉ブロック協議会を活用し、また、研修会に参加するなどして、公益法人制度改革による移行申請についての準備を進めました。
- ③ 理事会において、業務拡大と会員増強の分科会活動を活発にして、運営体制の強化を図りました。
- ④ 委員会等の活動を通じて、センターの事業運営への会員の積極的な参加を促進しました。